

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

～香美町における調査結果について～

本資料は、国が公表した「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査結果に基づき、調査対象学年である児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等について、本町の状況（平均値）を全国（平均値）との比較によって概要をまとめたものです。

1 調査の概要

（1）調査の目的

- 子どもの体力・運動能力等の状況にかんがみ、国が全国的な子どもの体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力や運動習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校が全国的な状況との関係において自ら子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力・運動能力向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

（2）調査の対象

- 小学校第5学年の全児童
- 中学校第2学年の全生徒

（3）調査の内容

- ① 児童生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
 - （ア）小学生
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - （イ）中学生
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、50m走、ハンドボール投げ
立ち幅とび、持久走（男子1500m、女子1000m）又は20mシャトルラン
 - イ 質問紙調査
- ② 学校に対する質問紙調査
- ③ 教育委員会に対する質問紙調査

（4）調査の方法

悉皆調査

（5）調査の実施期間

平成31年4月から令和1年7月までの期間で実施

（6）調査学校数・児童生徒数（公立学校）

香美町	学校総数(校)	参加学校数(校)	児童生徒数(人)	全国	学校総数(校)	参加学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	10	10	143	小学校	20,495	20,095	1,051,617
中学校	4	4	144	中学校	11,153	10,655	963,247
合計	14	14	287	合計	30,778	30,747	2,014,864

2 結果の概要

(1) 実技に関する調査

★[T 得点]・・・全国平均値を50ポイントとして相対的な得点を表す

比較して、高いとき「+」、低いとき「-」で表す
種目別数値は、[T 得点差測定：平均測定値差]を示す

【小学校男子】

◎体力合計点 香美:49.5 全国比(-0.5ポイント) 前年比(-2.7ポイント)[H30:52.2]

○種目別に全国を上回ったのは、5種目

<input type="checkbox"/> ソフトボール投げ	[+1.6 : +1.31m]	<input type="checkbox"/> 立ち幅とび	[+0.4 : +0.90cm]
<input type="checkbox"/> 20mシャトルラン	[+1.3 : +2.77回]	<input type="checkbox"/> 反復横とび	[+0.4 : 0.30点]
<input type="checkbox"/> 握力	[+1.1 : 0.41kg]		

【小学校女子】

◎体力合計点 香美:52.4 全国比(+2.4ポイント) 前年比(+3.5ポイント)[H30:48.9]

○種目別に全国を上回ったのは、6種目

<input type="checkbox"/> ソフトボール投げ	[+4.2 : +2.02m]	<input type="checkbox"/> 反復横とび	[+2.0 : +1.46点]
<input type="checkbox"/> 20m シャトルラン	[+4.5 : +7.50回]	<input type="checkbox"/> 立ち幅とび	[+2.0 : +1.46cm]
<input type="checkbox"/> 50m 走	[+2.2 : -0.19秒]	<input type="checkbox"/> 握力	[+1.5 : +0.56kg]

○種目別に前年を上回ったのは、7種目

<input type="checkbox"/> 20m シャトルラン	[+4.8 : +6.83回]	<input type="checkbox"/> 50m 走	[+3.1 : -0.23秒]
<input type="checkbox"/> 長座体前屈	[+0.2 : +0.15cm]	<input type="checkbox"/> 反復横とび	[+3.3 : +2.25点]
<input type="checkbox"/> ソフトボール投げ	[+3.8 : +1.67m]	<input type="checkbox"/> 立ち幅とび	[+1.7 : +3.29点]
<input type="checkbox"/> 上体起こし	[+4.1 : +22回]		

【中学校男子】

◎体力合計点 香美:52.6 全国比(+2.6ポイント) 前年比(+1.7ポイント)[H30:50.9]

○種目別に全国を上回ったのは、9種目

<input type="checkbox"/> 20m シャトルラン	[+4.0 : +9.88回]	<input type="checkbox"/> 反復横とび	[+4.3 : +3.48点]
<input type="checkbox"/> 立ち幅とび	[+2.8 : +8.00cm]	<input type="checkbox"/> 長座体前屈	[+2.6 : +2.83m]
<input type="checkbox"/> 50m 走	[+2.1 : -0.19秒]	<input type="checkbox"/> ハンドボール投げ	[+1.6 : +0.94m]
<input type="checkbox"/> 持久走	[+1.9 : -12.56秒]	<input type="checkbox"/> 握力	[+2.7 : +1.90kg]
<input type="checkbox"/> 上体起こし	[+0.5 : +0.30回]		

○種目別に前年を上回ったのは、8種目

<input type="checkbox"/> 長座体前屈	[+4.4 : +4.75cm]	<input type="checkbox"/> 反復横とび	[+2.8 : +1.92点]
<input type="checkbox"/> 握力	[+1.5 : +0.84kg]	<input type="checkbox"/> 持久走	[+0.3 : -4.26秒]
<input type="checkbox"/> 20m シャトルラン	[+1.3 : +0.68回]	<input type="checkbox"/> 50m 走	[+0.7 : -0.03秒]
<input type="checkbox"/> 立ち幅とび	[+1.8 : +4.69cm]	<input type="checkbox"/> ハンドボール投げ	[+0.8 : +0.33m]

【中学校女子】

◎体力合計点 香美:54.3 全国比(+4.3ポイント) 前年比(-0.9ポイント)[H30:55.2]

○種目別に全国を上回ったのは、9種目

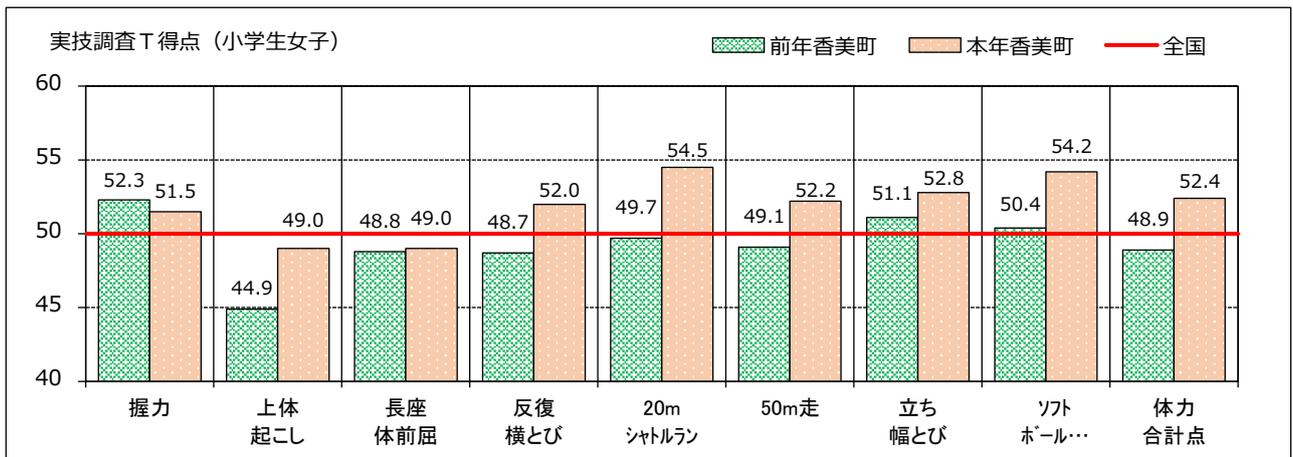
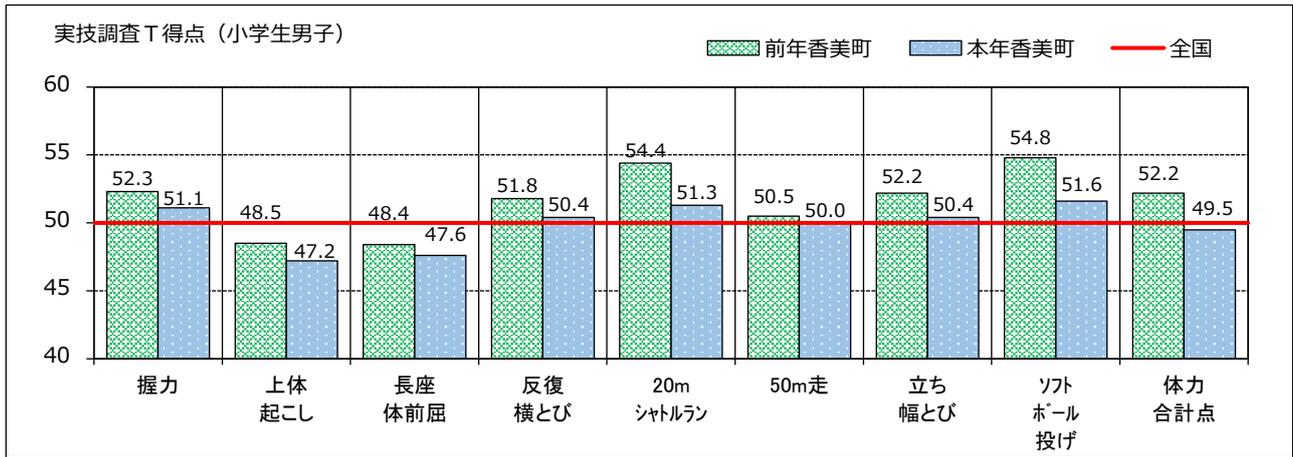
<input type="checkbox"/> 握力	[+5.5 : +2.52kg]	<input type="checkbox"/> 長座体前屈	[+0.9 : +0.87cm]
<input type="checkbox"/> 反復横とび	[+4.8 : +3.26点]	<input type="checkbox"/> 持久走	[+1.7 : -7.28秒]
<input type="checkbox"/> 20m シャトルラン	[+4.8 : +7.33回]	<input type="checkbox"/> 50m 走	[+2.2 : -0.18秒]
<input type="checkbox"/> ハンドボール投げ	[+3.0 : +1.27m]	<input type="checkbox"/> 立ち幅とび	[+2.8 : +6.72m]
<input type="checkbox"/> 上体起こし	[+2.6 : +1.53回]		

○種目別に前年を上回ったのは、2種目

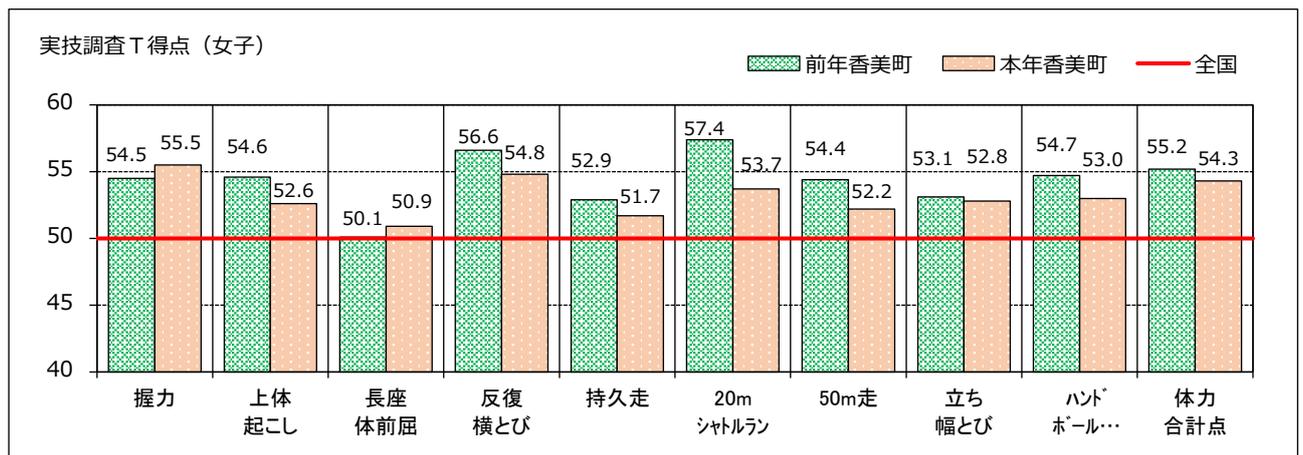
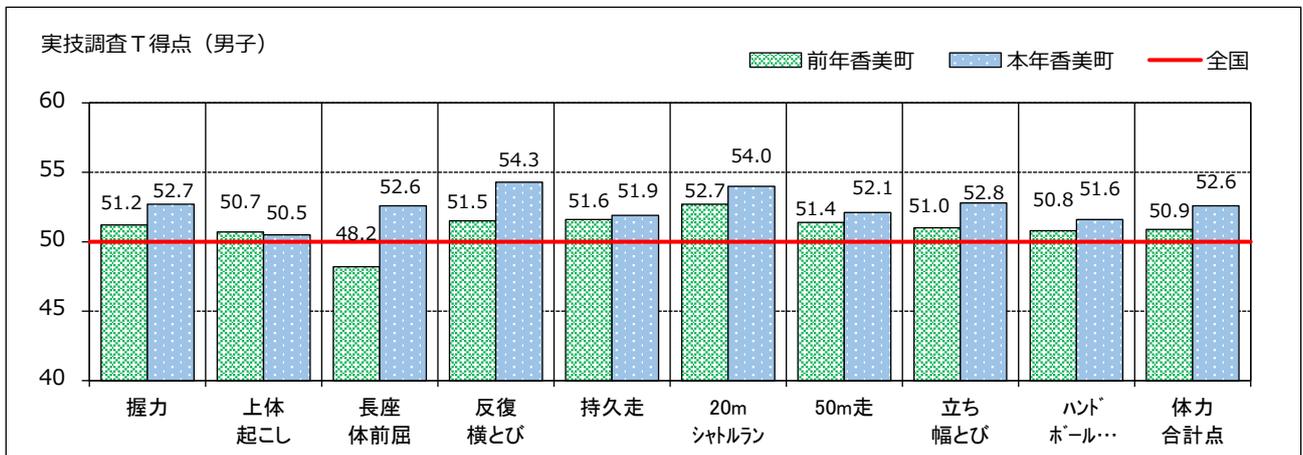
<input type="checkbox"/> 長座体前屈	[+0.8 : +0.87cm]	<input type="checkbox"/> 握力	[+1.0 : +0.36kg]
--------------------------------	--------------------	-----------------------------	--------------------

【資料】(1) 実技に関する調査について

1-1 実技調査【小学校 5年生】



1-2 実技調査【中学校 2年生】



(2) 体格と肥満度に関する調査

【小学生男子】 ※T: T得点を表す ※見方: 肥満・瘦身の比較値は「-」の方が正常に近い

- ・身長・・・[139.12cm] 全国比 (+0.20cm) [T: +0.3] 前年比 (+1.92cm) [T: +3.1]
- ・体重・・・[36.04kg] 全国比 (+1.67kg) [T: +2.3] 前年比 (+2.90kg) [T: +3.7]
- ・肥満傾向児・・・[18.2%] 全国比 (+7.1%) [H31: 11.1%] 前年比 (+3.1%) [H30: 15.1%]
- ・痩身傾向児・・・[0.0%] 全国比 (-2.6%) [H31: 2.6%] 前年比 (-4.5%) [H30: 4.5%]

【小学校女子】

- ・身長・・・[140.29cm] 全国比 (+0.17cm) [T: +0.3] 前年比 (+0.36cm) [T: +0.5]
- ・体重・・・[33.95kg] 全国比 (-0.16kg) [T: -0.2] 前年比 (+0.52kg) [T: +0.6]
- ・肥満傾向児・・・[6.0%] 全国比 (-2.2%) [H31: 8.2%] 前年比 (-2.6%) [H30: 8.6%]
- ・痩身傾向児・・・[1.5%] 全国比 (-1.1%) [H31: 2.6%] 前年比 (-1.4%) [H30: 2.9%]

【中学校男子】

- ・身長・・・[159.71cm] 全国比 (-0.29cm) [T: -0.4] 前年比 (+0.42cm) [T: +0.6]
- ・体重・・・[48.13kg] 全国比 (-0.71kg) [T: -0.7] 前年比 (+0.39kg) [T: +0.2]
- ・肥満傾向児・・・[6.8%] 全国比 (-1.8%) [H31: 7.2%] 前年比 (-2.3%) [H30: 9.1%]
- ・痩身傾向児・・・[2.7%] 全国比 (-0.1%) [H31: 2.8%] 前年比 (-0.2%) [H30: 2.9%]

【中学校女子】

- ・身長・・・[154.52cm] 全国比 (-0.34cm) [T: -0.6] 前年比 (+0.39cm) [T: +0.8]
- ・体重・・・[46.21kg] 全国比 (-0.61kg) [T: -0.8] 前年比 (-0.50kg) [T: -1.0]
- ・肥満傾向児・・・[2.9%] 全国比 (-3.8%) [H31: 6.7%] 前年比 (-1.1%) [H30: 4.0%]
- ・痩身傾向児・・・[2.9%] 全国比 (-0.8%) [H31: 3.7%] 前年比 (+0.2%) [H30: 2.7%]

(3) 児童生徒質問紙調査

①運動習慣等の状況

【小学校】

- ・『運動やスポーツを週1日以上実施している』児童の割合は、男子で(100.0%) 女子で(98.5%)
全国と比較し、男子で(+3.6%) [国 H31 96.4%] 女子で(+3.2%) [国 H31 95.3%]
前年と比較し、男子で(±0.0%) [審美 H30 100.0%] 女子で(-0.1%) [審美 H30 98.6%]
- ・『運動部やスポーツクラブに入っている』児童の割合は、男子で(79.2%) 女子で(63.6%)
全国と比較し、男子で(+12.5%) [国 H31 66.7%] 女子で(+17.4%) [国 H31 46.2%]
前年と比較し、男子で(+1.9%) [審美 H30 77.3%] 女子で(-0.2%) [審美 H30 63.8%]
- ・『運動部やスポーツをすることが好き』と回答した児童の割合は、男子で(74.0%) 女子で(63.6%)
全国と比較し、男子で(+2.8%) [国 H31 71.2%] 女子で(+8.1%) [国 H31 55.5%]
前年と比較し、男子で(-15.4%) [審美 H30 89.4%] 女子で(+7.1%) [審美 H30 56.5%]

【中学校】

- ・『運動やスポーツを週1日以上実施している』生徒の割合は、男子で(100.0%) 女子で(87.0%)
全国と比較し、男子で(+5.2%) [国 H31 94.8%] 女子で(±0.0%) [国 H31 87.0%]
前年と比較し、男子で(+2.6%) [審美 H30 97.4%] 女子で(-4.8%) [審美 H30 91.8%]
- ・『運動部やスポーツクラブに入っている』生徒の割合は、男子で(100.0%) 女子で(68.5%)
全国と比較し、男子で(+16.4%) [国 H31 83.6%] 女子で(+8.3%) [国 H31 60.2%]
前年と比較し、男子で(+2.6%) [審美 H30 97.4%] 女子で(-11.5%) [審美 H30 80.0%]
- ・『運動部やスポーツをすることが好き』と回答した生徒の割合は、男子で(79.2%) 女子で(51.5%)
全国と比較し、男子で(+16.3%) [国 H31 62.9%] 女子で(+4.6%) [国 H31 46.9%]
前年と比較し、男子で(+13.8%) [審美 H30 65.4%] 女子で(-7.2%) [審美 H30 58.7%]

①体育授業・保健体育授業に関する意識

※ [] 何の表記は、[男子割合 女子割合] を表す

【小学校】

- ・「体育の授業は楽しい」は、[75.3% 74.2%] で、全国比は [+1.5% +14.0%] で上回った。
- ・「体育の授業で学んだ内容は将来に役立つ」は、[50.0% 53.0%] で、全国比は [-1.3% +11.0%] で男子は下回ったが、女子では上回った。
- ・オリンピック・パラリンピックについて、「試合を見に行ってみよう」[71.1% 57.6%]、「運動に関心が高まってきた」[43.4% 40.9%]、「競技種目を自分も行ってみよう」[48.7% 40.9%] という気持ちが上位で、女子では「大会ボランティアをしてみよう」も上位だった。
- ・できないことができるようになったきっかけとして、「個別にコツやポイントを教えてもらった」[58.4% 66.7%]、「友達に教えてもらった」[64.9% 72.7%]、「先生や友達のまねをしてみた」[53.2% 62.1%] が上位だった。
- ・体育の授業では、「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動」[70.1% 77.3%]、「話し合う活動」[61.0% 65.6%] を行っているが上位だった。「体育の授業ではたくさん動く」は、全国を上回った。

【中学校】

- ・「保健体育の授業は楽しい」は、[64.9% 47.1%] で、全国比は [+12.1% +6.4%] で上回った。
- ・「保健体育の授業で学んだ内容は将来に役立つ」は、[46.6% 38.6%] で、全国比は [+5.3% +7.4%] で上回った。
- ・オリンピック・パラリンピックについて、「試合を見に行ってみよう」[63.5% 59.4%]、「運動に関心が高まってきた」[56.8% 37.7%] が上位で、男子では「競技種目を自分も行ってみよう」、女子では「大会ボランティアをしてみよう」などで全国を上回った。
- ・できないことができるようになったきっかけとして、「友達に教えてもらった」[58.9% 79.7%]、「個別にコツやポイントを教えてもらった」[78.1% 55.1%]、「授業中に自分で工夫した」[50.7% 46.4%] が上位だった。
- ・保健体育の授業では、「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っている」[54.1% 61.4%]、「話し合う活動」[53.4% 45.7%] が上位だった。「授業の始めに目標が示されている」「振り返る活動」は、全国を下回った。「保健体育の授業では十分に体を動かしている」は、男子は全国を上回ったが、女子では下回った。

(4) 学校質問紙調査

○前年度、学校全体で児童の体力・運動能力向上のための目標（値）を設定している。

小学校の割合は、100.0% で設定している、全国 [82.1%] と比較して +17.9% である。

中学校の割合は、100.0% で設定している、全国 [75.2%] と比較して +24.8% である。

○『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』の結果を踏まえた授業の工夫・改善を行っている。

小学校の割合は、行った 100.0%、行う予定 0.0%、全国 [55.1% 30.8%] と比較して +14.1% である。

中学校の割合は、行った 100.0%、行う予定 0.0%、全国 [60.8% 29.2%] と比較して +10.0% である。

○学校の体育・保健体育授業として、 ※ [小学校の割合 中学校の割合 (いつも+だいたい)] を表す

・体育授業の目標を児童・生徒に示す活動を

取り入れている [70.0% 100.0%] 全国比 [+12.0% +1.3%] 前年比 [±0.0% ±0.0%]

・保健体育授業で学習したことを振り返る活動を

取り入れている [60.0% 100.0%] 全国比 [+7.4% +4.0%] 前年比 [+10.0% ±0.0%]

・体育授業で児童・生徒が助け合い、役割を果たす活動を

取り入れている [60.0% 100.0%] 全国比 [-0.9% +2.7%] 前年比 [-20.0% ±0.0%]

・体育授業で児童・生徒同士で話し合う活動を

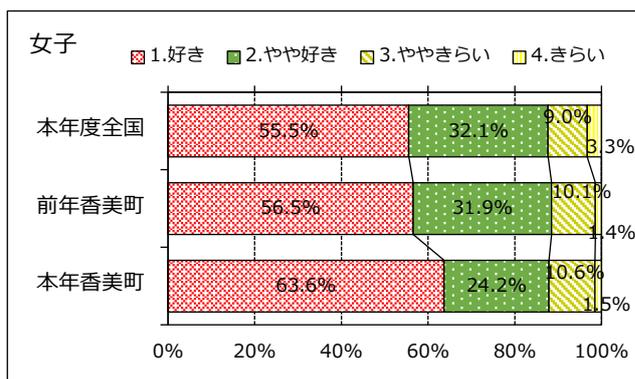
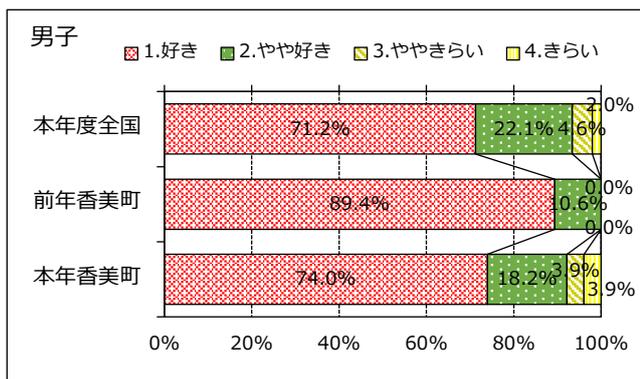
取り入れている [60.0% 100.0%] 全国比 [+9.5% ±0.0%] 前年比 [±0.0% ±0.0%]

○調査結果を踏まえた取組として、「体力向上に係る家庭への説明・呼びかけ」を行ったり、調査結果の活用として「記録シートを活用する」などの取組が挙げられる。

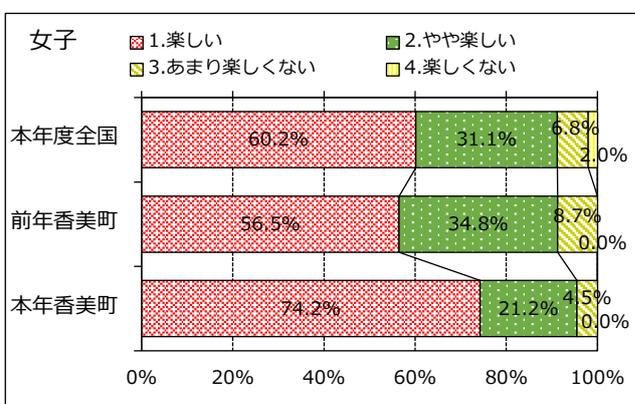
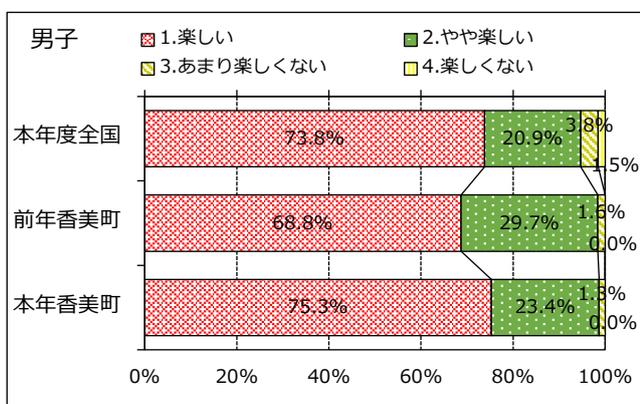
【資料】(3) 児童生徒質問紙調査について

3-1 児童生徒質問紙調査【小学校 5年生】

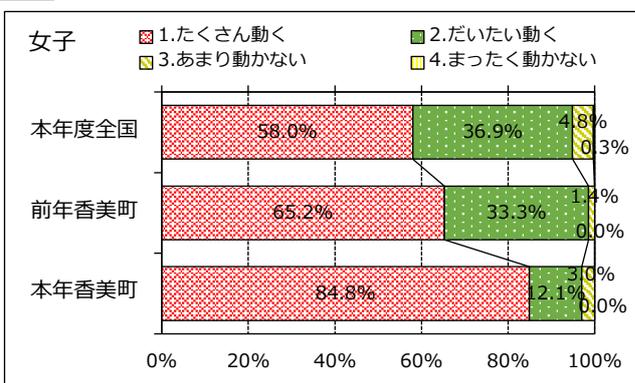
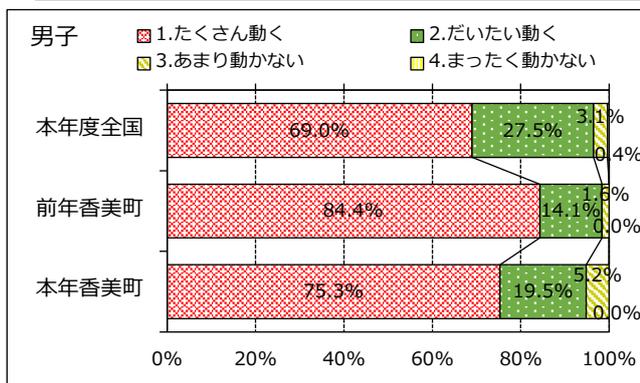
Q1. 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。(Q1)



Q2. 体育の授業は楽しいですか。(Q11)



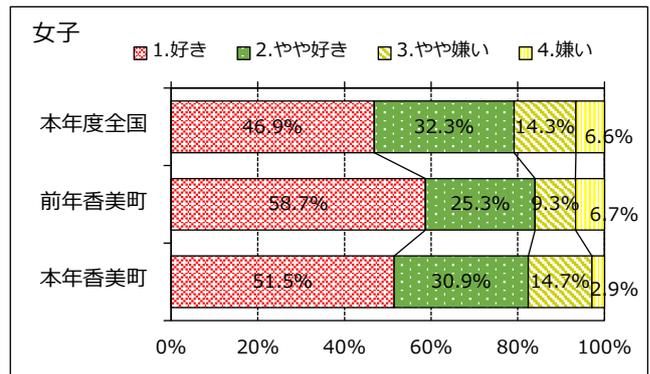
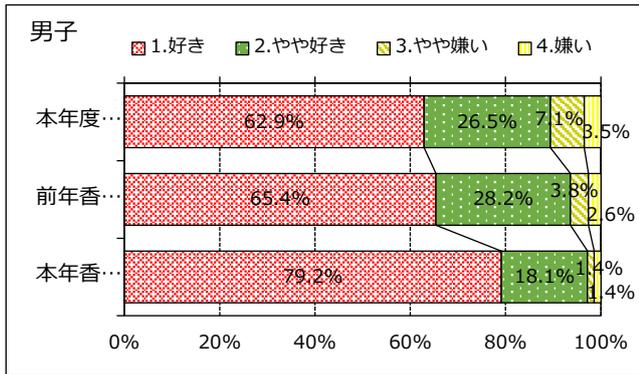
Q3. 体育の授業では、たくさん動きますか。(Q12)



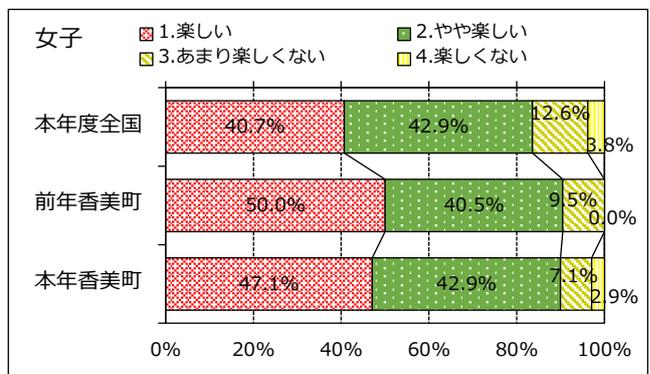
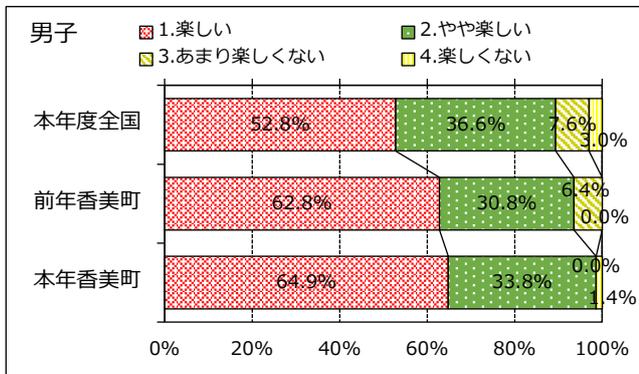
【資料】(3) 児童生徒質問紙調査について

3-2 児童生徒質問紙調査【中学校 2年生】

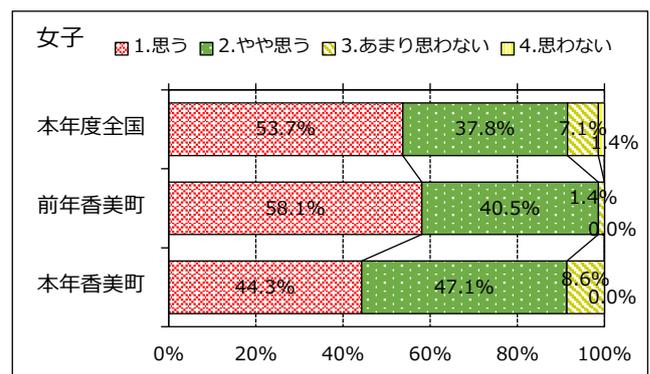
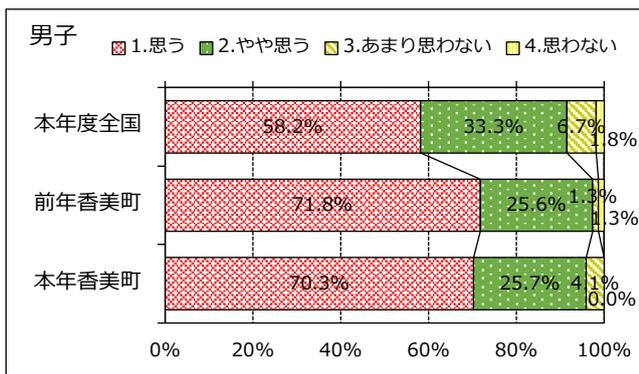
Q1. 運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。(Q1)



Q2. 保健体育の授業は楽しいですか。(Q11)



Q3. 保健体育の授業では、十分に体を動かしていると思いますか。(Q12)



3 本町の体力・運動能力・運動習慣等の状況について

今回の調査から、本町における小・中学生の体格、運動能力、運動習慣等については、以下のとおりである。主に全国と比べる中で、その特徴や傾向等についてまとめたものである。

■**体格** ⇒ 身長は小学生が全国より上回っているが、中学生は下回っている。
肥満傾向出現率は、小学生男子以外が全国より低い。

体格については、全国と比べて、小学生の身長は上回り、中学生は下回った。体重では、小学生男子だけが上回り、小学生女子、中学生は下回った。肥満傾向出現率では、小学生女子、中学生が低く、小学生男子は高かった。

■**体力合計点** ⇒ 中学生女子は全国を大きく上回る。小学生女子・中学生男子は全国を上回る。

体力合計点については、全国と比べて、小学生の男子はわずかに下回り、女子は上回り、合わせて総合評価Aの割合も大きく上回った。中学生は男女ともに上回り、また中学生女子は、昨年に引き続き、総合評価Aの割合も大きく上回った。

※「総合評価」は、全種目実施し、合計得点を5段階（A～Eで、Aを上位）で判定したもの

■**種目別** ⇒ 中学生男子・女子ともに全9種目で、全国を上回る。
小学生の男子は5種目で、女子は6種目で、全国を上回る。

体力については、全国と比べて、小学生男子は8種目中5種目で、女子は6種目で上回った。男女共通して「投げる力」「持久力」が上回り、さらに男子は「握力」、女子は「跳躍力」も上回った。しかし、男女ともに「上体起こし」「長座体前屈」は下回った。

中学生は全9種目で上回った。特に男子は、「反復横とび」「シャトルラン」で大きく上回り、女子は、「握力」「反復横とび」が大きく上回った。

■**運動習慣等** ⇒ 「健康であるためには運動を行うことが大切」であるということについて、小・中学生の意識割合は高く、全国を上回る。
「運動やスポーツをすることが好き」であるということについて、小・中学生の意識割合は高く、全国を上回る。

運動習慣等については、全国と比べて、小学校では、朝食を毎日食べている割合は高く、睡眠を8時間以上取っている割合は同程度であった。健康であるためには、運動・食事・睡眠などが大切であるという意識割合は高く、やや上回った。運動やスポーツをすることが好きである割合は上回った。

中学校では、全国と比べて、朝食を毎日食べている割合は高いものの、睡眠を8時間以上とっている割合はやや下回った。健康であるためには、運動・食事・睡眠などが大切であるという割合は高く、ほぼ同程度か上回った。特に男子は、「運動やスポーツをすることが好き」「運動やスポーツは大切なもの」という意識や、部活動や普段の保健体育の授業以外で体を動かす運動・スポーツする時間は上回った。

2020年のオリンピック、パラリンピックについては、小・中学生とも「試合を見に行きたい」「運動に関心が高まってきた」等の意識割合が高く、そのほかにも全国と比べて上回る項目が多かった。また女子では、「大会ボランティアをしてみたい」と回答した児童生徒も多かった。

■体育・保健体育の授業 ⇒

「体育の授業は楽しい」ということについて、全国と比べて、小学生、中学生ともに上回る。

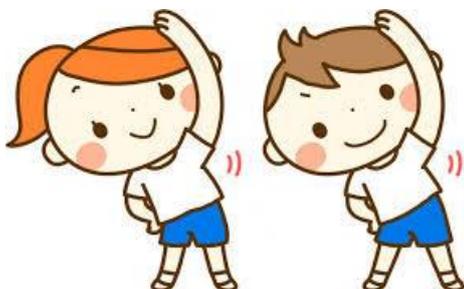
授業中に「助け合う活動」「話し合う活動」を行っているということについて、全国と比べて、小学生は上回り、中学生は同程度であった。

体育及び保健体育授業については、全国と比べて、「体育の授業は楽しい」と感じている小・中学生ともに上回った。「体育の授業では十分に体を動かしている」の項目では、小学生男子が上回り、小学生女子・中学生男子は大きく上回ったものの、中学生女子では下回った。

「助け合う活動」「話し合う活動」を行っているとした小学生は、全国と比べて上回り、中学生は、同程度だった。「授業の目標が示されている」は小学生でやや上回ったが、中学生では下回った。「振り返る活動を行っている」は小・中学生ともに下回った。これらを一層意識した授業づくりが求められる。

「できなかったことができるようになったきっかけ」として、小・中学生ともに「友達に教えてもらった」「先生に教えてもらった」という意識割合が高く、次いで小学生、中学生女子では「先生や友達のまねをしてみた」が多く、中学生男子では「授業中に自分で工夫した」が多かった。小・中学生ともほとんどの項目で上回った。

「体育の授業中にタブレット端末等を用いて、自分や友達の動きを撮影して活用する活動を行っている」が、小・中学校ともに上回った。特に中学校ではよく活用されている。



4 全体の考察

1 体格について

- ⇒ 全国と比べて、「身長」「体重」とも小学生は上回り、中学生は下回った。
「肥満傾向出現率」は、小学生女子、中学生が低い。
- ⇒ 前年度に比べて、「身長」「体重」とも小学生は上回り、中学生は下回った。
「肥満傾向出現率」は、小学生女子、中学生が低い。

体格については、全国と比べて、身長は、小学生は上回ったが、中学生は下回った。体重では、小学生の男子が上回り、小学生女子と中学生は下回った。

前年度に比べて、小学生は身長・体重ともに上回ったが、中学生は身長・体重ともに下回った。

肥満傾向出現率では、全国と比べて、小学生女子と中学生は肥満傾向の割合は低かった。しかし、小学生男子は、正常の割合は低く肥満傾向の割合は高かった。

中学生になると、肥満児の出現率が低くなる傾向が見られるのは、部活動なども始まり、活動量が増え、体格バランスも整ってくるからではないかと考えられる。

2 体力合計点について

- ⇒ 全国と比べて、小学生女子、中学生は上回る。小学生男子はわずかに下回る。
- ⇒ 前年度に比べて、小学生女子と中学生男子は上回り、小学生男子と中学生女子は下回る。

体力合計点については、全国と比べて、小学生男子は下回り、小学生女子と中学生はともに上回った。また、昨年度と同様に中学生女子は4ポイント以上上回った。

前年度と比べ、小学生女子と中学生男子は上回り、小学生男子と中学生女子は下回った。

3 種目別について

- ⇒ 小学校では、全国と比べて、男子は5種目、女子は6種目が上回る。
前年度と比べて、女子は7種目で上回ったが、男子は全8種目で下回った。
- ⇒ 中学校では、全国と比べて、男子・女子とも全9種目が上回る。
前年度と比べて、男子は8種目、女子は2種目が上回る。

種目別については、小学校では、全国と比べて上回った種目は、男子は5種目、女子は6種目であった。男女共通して「握力」「反復横とび」「シャトルラン」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」では上回り、「上体起こし」「長座体前屈」では下回った。前年度と比べては、女子が7種目で上回った。なかでも、「シャトルラン」「ソフトボール投げ」が4ポイント以上上回った。このことから、「投げる力」「持久力」が高くなってきているものの、前年度と同様に「柔軟性」に課題があることが分かった。

中学校では、全国と比べて上回った種目は、男女とも全9種目で上回った。男子は「反復横とび」「シャトルラン」では4.0ポイント以上上回り、女子は、「握力」で5.0ポイント以上、「反復横とび」で4.0ポイント以上上回った。男女ともに「上体起こし」「長座体前屈」も、上回った。前年度と比べて、男子は8種目、女子は2種目で上回った。男女ともに「長座体前屈」が上回った。前年度同様に「柔軟性」に改善がみられる。女子は前年度の伸び率がよかったこともあり、上回った種目はわずかにとどまったが、総合評価Aの割合は、全国を大きく上回っている。

「柔軟性」が少しずつ改善に向かっているのは、準備体操や様々な運動の機会に柔軟運動を取り入れ、意図的・継続的に工夫して取り組んでいる成果であり、これからも継続していくことが大切である。

4 運動習慣等について

- ⇒ 「健康であるためには運動を行うことが大切」「運動やスポーツをすることが好き」という項目は、小・中学生の意識割合は高く、全国を上回る。
「運動やスポーツは大切なもの」という項目は、小・中学生ともに全国を上回る。
- ⇒ オリンピック、パラリンピックについて「試合を見に行ってみたい」の項目が、小・中学生の意識割合で最も高い。

運動習慣等については、全国と比べて、「ふだん、体育の授業以外で運動やスポーツをする時間」が、小・中学生ともにわずかに上回った。

「健康であるために『運動を行うこと』『食事をしっかりとること』『よく寝ること』が大切」という意識割合は小・中学生ともに高く、全国と比べ、ほぼすべての項目で上回った。なかでも健康であるために、小学生では「よく寝ること」、中学生では「運動を行うこと」が大切という意識が大きく上回った。

小学生では、朝食は85%以上が毎日食べており、全国と比べて上回った。睡眠を8時間以上とっている割合は69%で、全国と比べて同程度であった。また、中学校では、朝食は80%以上で全国とほぼ同じであったものの、睡眠を8時間以上とっている割合は20%程度で、全国と比べて下回った。「運動やスポーツをすることが好き」「運動やスポーツは大切なもの」という意識は、小・中学生ともに全国と比べて上回った。

小学生の、中学校に進んでからの運動やスポーツをすることへの意識割合は高く、特に女子は前年と比べても上回った。中学生は、卒業してからのスポーツをすることへの意識割合は、男子は全国、前年度よりも上回ったが、女子は全国をわずかに下回り、前年比では大きく下回った。

将来にわたって、健康を維持していくためには、運動やスポーツは欠かせないものであり、楽しいものであるということを教えていく取組が必要である。

オリンピック、パラリンピックについて、小学生では「試合を見に行ってみたい」が最も高く、次に男子では「競技種目を自分も行ってみたい」、女子では「大会ボランティアをしてみた」の意識割合が高かった。

中学生では、「試合を見に行ってみたい」「運動に関心が高まってきた」が男女とも上位だった。そのほかの項目も全国と比べて上回るものが多かった。また、中学生女子では小学生女子同様「大会ボランティアをしてみたい」という意識が高かった。

この結果から、運動やスポーツに関心・意欲を高める取組の成果が少しずつ表れている。今後さらに、運動やスポーツを積極的に行ったり見たりする機会づくりを工夫することが大切であるとともに、ボランティア活動に対する意識付けをしていくことも必要である。

5 体育及び保健体育の授業について

- ⇒ 「体育の授業は楽しい」という項目は、全国と比べて、小・中学生ともに上回った。
- ⇒ 体育の授業中に「助け合う活動」「話し合う活動」を行っているという項目は、全国と比べて、小学生は大きく上回り、中学生は同程度であった。

体育及び保健体育の授業については、全国と比べて、「体育の授業は『楽しい』」という意識は、小・中学生ともに上回った。「体育の授業では十分に体を動かしていると『思う』」という意識は、全国と比べて、小学生男子は上回り、小学生女子と中学生男子は大きく上回ったものの、中学生女子では下回った。

授業で「助け合ったり、役割を果たしたりする活動を行っている」という意識は、全国に比べて、小学生では大きく上回り、中学生では同程度だった。また、「話し合う活動を行っている」では、小学生、中学生男子で上回った。しかし、「振り返る活動を行っている」は、小・中学生とも下回った。「目標が示されている」は、小学生は下回ったが、中学生では同程度だった。このことから、「学習の目標の提示」や「振り返る活動」を意識した授業づくりに一層努めることが大切である。

「できないことができるようになったきっかけ・理由」として、全国と比べて、小学生では「友達に教えてもらった」「授業中・授業外に先生に教えてもらった」などが上回った。中学生では「授業中に自分で工夫した」「授業中に自分の動きを動画を見た」などが上回った。

6 学校質問紙について

- ⇒ 体育授業で努力を要する児童・生徒に対する取組では、「友達同士で教え合いを促す」「運動課題の段階的な準備」などの意識割合が高く、全国を上回る。
- ⇒ 体育の授業においていつも取り入れている「話し合う活動」「授業中のICTの活用」の割合は、小・中学校ともに全国を上回る。

学校質問紙については、全国と比べて、小・中学校ともに、体力・運動能力向上に向けた取組として上回ったものとしては、「体力・運動能力向上の目標設定」「運動・スポーツが苦手な児童・生徒向けの取組」などがあつた。

調査結果の活用状況は、「資料CDの活用」「学校用確認シートの活用」などで上回つた。

また、体育授業で努力を要する児童・生徒に対する取組として、「授業中、コツやポイントを重点的に教える」「友達同士で教え合いを促す」などの意識割合が高く全国と比べて上回つた。

体育の授業において、「助け合い、役割を果たす活動」「話し合う活動」などが上回つた。「授業中に、ICT機器を活用する」は、中学校では活用しているものの、小学校では、判断を任せているところが多かつた。

7 今後については、「運動やスポーツを行つて楽しいと感じたのはどのようなときか」という質問に対し、小学生では男女とも「できることができるようになったこと」と回答している割合が最も高く、次いで「記録が伸びた」「上手にできた」となつている。中学生では男女ともに「上手にできた」が最も高く、男子では「勝つた」と答えたものも同じ割合であつた。女子では「できなかったことができた」が上位だつた。小・中学生とも60%以上が「大人に褒められた」と回答しており、誰かに褒められ、認められることにより、達成感とともに運動の楽しさを知るといふ充実感を味わうことができることも考えられる。このことから、各学校において今年度の調査結果の分析を行い、成果や課題を踏まえた改善策に継続的に取り組むとともに、香美町の進める「ほめる・認める」教育の推進を図り、個々の能力を高めることが求められる。また、地域や家庭ともこの結果を共有した取組を行つていくことが大切である。



5 今後の方策

今後、本町では、これらの体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、子どもの体力向上に向けて、今年度取り組んできたことを更に継続し充実させることが大切である。そこで、次のように学校・家庭・地域が連携し、それぞれの場で、課題を意識し具体的な目標をもって取り組むことが大切である。

学 校

(1) 体育・保健体育の授業に、次の観点を取り入れる

体力・運動能力調査の結果から、体育・保健体育の授業を見直し、次の点を授業の中で推進することが大切である。

- ① 授業の冒頭の「目標を確認する活動」や最後の「振り返る活動」の取組
- ② 運動能力調査や新体力テストの分析結果の授業内容への反映
 - ・ 劣っている項目に関連する運動に重点をおき、系統的な指導をする。
 - ・ 年間カリキュラムを見直し、運動時間を最大限に確保する。
- ③ 「わかる」「できる」楽しさを実感させる運動への主体性を育む学習方法
 - ・ 学習カードの活用により、めあてをもって授業に取り組む。
 - ・ 進級カードの作成や成果発表の機会を設ける。
 - ・ グループ活動等による学び合い活動、助け合い活動を効果的に取り入れる。(協働的な学習)
 - ・ ICT機器の活用による話し合い(教え合い)活動を充実させる。
 - ・ 体育授業で動きを撮影して活用する活動を取り入れたり、動画を活用する。
- ④ 「認める・ほめる」ことにより達成感が得られる指導法の重視
- ⑤ 個々のつまづきを克服するため、具体的な声かけや指導方法の工夫

(2) 授業にPDCAサイクルを取り入れ、「子どもの体力向上」を図る

本町の児童・生徒の体力を向上させるためには、運動に対する意欲を高め、体力の向上に成果を上げる授業を推進することが大切である。そのためには、これまでの授業を見直し、児童・生徒が主体的に運動するPDCAサイクルを取り入れた授業を推進するとともに、グループやペアで共に全力を尽くし互いに援助し合う「協働的な学習」を取り入れることが大切である。

《PDCAサイクルを取り入れた授業展開事例》

- (1) 前時を振り返り、「本時のめあて」を立てる。(Plan)
- (2) グループに分かれ、めあてをもとに「技」に取り組む。(Do)
 - ① 学習内容にふさわしい準備運動をする。
 - ② 学習カードを活用して、練習する。
 - ③ 他者観察からの気づきを教えあう。
 - ④ 相手や仲間への励ましや称賛の声をかける。
- (3) 自分や仲間の動きをICT機器などを用いて確認する。(Check)
 - ① DVD・パソコン・タブレットなどを活用し、自己観察により自分の動きを振り返る。
 - ② 技能の習得に向けて、コツの伝授やアドバイスをする。
 - ③ グループでの練習方法や作戦などを話し合う。
 - ④ 楽しく学習を進めるためのルールや方法を話し合う。
- (4) 改善点を明確にした上で、もう一度「技」に挑戦する。(Action)
 - ① 「本時のめあて」の達成の度合いを確認する。
 - ② 「振り返りの活動」を行い、学習の成果を確認する。
 - ③ 次時に向けての目標や課題をつかむ。(楽しい遊びへの発展・運動への意欲につなげる)

(3) 効果の上がる運動環境を整備

子どもの体力・運動能力は、活発に体を動かして遊ぶ習慣や規則正しい生活習慣の影響が積み重ねられて徐々に向上する。生涯にわたる心身の健康づくりの視点からも幼児期から体を動かす楽しさに触れ、休み時間や放課後なども利用するなど、遊びや運動する機会を設定し、その継続による運動習慣作りに努めます。

- ① 幼稚園・保育所を巻き込んで校種間連携の推進
- ② 全教職員が共通理解を図る時間の確保
- ③ 体育実技講習会への参加、模擬授業、研究指定校として実践発表などの研修機会の充実
- ④ 部活動における体力向上への取組の充実
 - ・文化部活動における体力づくりや運動
 - ・部活動の活動内容の工夫
 - ・目標をもった部活動の取組
 - ・卒業後の豊かなスポーツライフにつなげる運動部活動の働きかけ
- ⑤ 学校での遊びや運動時間の確保（朝時間、業間、昼休み等）
 - ・「〇〇タイム」のような運動タイムを設定し、楽しく取組めるよう工夫する。
 - ・チャレンジカード、記録カードのような、がんばりや継続につながるものを工夫する。
- ⑥ オリンピック・パラリンピックの開催を契機とする運動やスポーツへの興味・関心を高める取組の推進（将来の夢や目標を持たせ、その実現に向けた活動を展開する。）
- ⑦ 体育的行事に向けた自主的・意欲的な取組の工夫

家庭との連携

- ① 家族と一緒に運動やスポーツを「する」「観る」「話す」機械の設定
- ② 運動・スポーツの習慣づくり
- ③ 規律ある生活（早寝・早起き、朝ごはん等）の習慣づくり
- ④ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けた健康的な体づくり
- ⑤ 休日や長期休業期間における運動時間の確保
- ⑥ 憧れのスポーツ選手や国際的なスポーツ大会への参加など将来への夢づくり

地域との連携

- ① 地域スポーツクラブとの連携、スポーツ指導者の活用（スポーツクラブ21、体育協会、スポーツ推進委員等）
- ② 児童生徒が積極的に参加する地域の体育的行事づくり

大学との連携

日本体育大学との連携協定事業（令和元年度）

- ・「講演会」（講師：日本体育大学 筒井崇護教授）
→町内中学3年生を対象に運動能力・意欲向上を主とした体力づくり、スポーツ分野のレベルアップ等の推進、また今後の人間形成の礎のために本事業を実施した。
- ・「陸上教室」（講師：日本体育大学 別府健至教授）
→町内小中学生の運動能力・意欲向上を主とした、体力づくり、スポーツ分野のレベルアップ等を推進するために本事業を実施した。